

1.4 IGFA会合における人間・社会的側面研究の考え方

IGFAは、地球変動研究に対して資金提供を行う国家機関により、非公式に構成された組織である。

1990年にIGFA内に人間・社会的側面研究に関するワーキンググループが設置され、IGFAメンバーのHDPに関する理解の促進、及びHDPとIGFAとの対話の継続に取り組んでいる。

1995年10月29日から11月1日まで、京都において開催されたIGFA会合では、HDPに関して以下のような議論がなされた。

a. HDPの近年の活動に対する評価

第3回HDPシンポジウムについては、全体的に活動が活発化しているとして、一定の評価を与えた。しかし、組織の構成などについては、さらに検討すべき面が残されているとの認識も示された。

今後の課題としては、科学的アジェンダが広範囲にわたり過ぎることのないよう精査すること、ISSC及びICSUの協力の下、IGBPやSTARTとHDPとの連携を一層強化すべきであることなどが指摘された。

b. HDPに関するIGFAの姿勢

これらの議論を通して、HDPに関するIGFAの取り組み姿勢は、以下のようにまとめられる。

まず、IGFAはICSUがHDPへのISSCとの共同出資を検討していることについて、これを歓迎している。

IGFAにおいては人間・社会的側面研究の重要性が充分認識されており、これに関する取り組みは優先的に継続される。また、メンバー国の蓄積や経験の中から、HDPの発展に貢献し得るものを提供していく。

また、IGFAはHDPへの支援を継続する必要性を認識しており、これを継続する。さらに、ISSCとICSUとがHDPに対する共同出資について、2年間にわたり検討を行うに当たって、両機関と適切な協力を行う。

IGFAは、メンバーがHDPに提供し得る支援の見通しをたてるために適切な場であると考えられる。現在提出されているHDPワークプランは、利用し得る予算を多く見積もっているように見受けられる。従ってIGFAは、ISSCとICSUとがHDPの予算の必要性などの分析を行うことを提案する。

IGFAメンバーは、国家／地域において研究を実施している研究者が関与しており、かつISSC及びICSUが共同で承認した、特定の課題への支援に関するプロポーザルを歓迎する。

IGFA運営委員会及びHDPワーキンググループは、ISSC／ICSUと協力することを歓迎しており、またHDPがプログラムや予算の策定に積極的に取り組むことに賛同する。